

受験番号 番 氏名

1. 全日本剣道連盟制定の「剣道の理念」を答えなさい。

2. 杖道を学ぶ目的について、次の()内に当てはまる語句を下の語群より選び記入しなさい。
杖道は()の修養と()の鍛錬を第一義とする。決して()の技ではなく()の
技で、その目的は()にある。

語群 心 攻撃 精神 身体 守備 手足 気力 精神修養

3. 用具(杖・太刀)の規格について、次の()内に当てはまる語句を下の語群より選び記入しなさい。
杖は、長さ()センチ、直径()センチで、材質は()のものを用いる。また、太刀は全長
()センチで柄の長さは()センチの()の木刀を用い、鍔は()製とする。

語群 2.4 24.2 白櫨 128 革 101.5 赤櫨

4. 全日本剣道連盟杖道の礼法について、次の()内に当てはまる語を下の語群より選び記入しなさい
座礼と立礼があり、立礼は、上座に対しては約()度、相互の立礼は約()度で相手に注目して行う。
打は太刀を()、仕は()または()で行う。

語群 15 20 30 45 左手携刀 右手提刀 常の構え 提杖 立杖

5. 全日本剣道連盟杖道の基本形の名称について、次の()内にあてはまる語を記入しなさい。
一本目 本手打 二本目 逆手打 三本目() 四本目()
五本目() 六本目 巻落 七本目() 八本目 繰放
九本目 体当 十本目() 十一本目 胴払打 十二本目 体外打

6. 全日本剣道連盟杖道の基本形の効果について、次の()内にあてはまる語を下の語群より選び記入しなさい。

- 1) 正しい姿勢と()を高める。
- 2) ()がわかり、打突が確実となる。
- 3) ()が正確、機敏、活発となる。
- 4) ()がなくなり、打筋が正しくなる。
- 5) 目付、眼が明らかとなり、()が充実してくる。

語群 個癖 気位 気合 身体 間合 動作 礼儀

7. 全日本剣道連盟杖道の形の名称について、次の()内にあてはまる語を記入しなさい。

一本目 着杖 二本目 水月 三本目() 四本目 斜面
五本目() 六本目 物見 七本目() 八本目 太刀落
九本目() 十本目() 十一本目 乱留 十二本目 乱合

8. 右本手の構えの要領について、次の空欄に当てはまる語句を下の語群より選び記入しなさい。

()から、右手、右足を前に出し、左手で杖尾を握り、右手をすべらせて、全長のほぼ()の
手幅にとり、杖先を相手の()にし、「()」となって構える。

語群 4分の1 水月の高さ やや半身 常の構え 3分の1 提杖 目の高さ 真半身

9. 全日本剣道連盟杖道基本の「逆手突」の目的について、次の()内に当てはまる語句を下の語群より選び記入しなさい。
「逆手突」は杖を()にもって、相手の()を()から突き、さらに()で
()を打つ技で、突きと打ちの動作を連続して行う技である。

語群 順手 顔面 右本手打 水月 逆手 上 正面 右逆手打 脇腹

10. 全日本剣道連盟杖道杖道の「着杖」の目的について、次の()内に当てはまる語を記入しなさい。

「着杖」は、()から切りおろす太刀を、体を()にかわして()を打ち、さらに、退き
ながら上段に構えるその()を()する形である。

1. 全日本剣道連盟制定の「剣道修練の心構え」について、次の（ ）内にあてはまる語を記入しなさい。
剣道を正しく真剣に学び、心身を錬磨して旺盛なる（ ）を養い、剣道の特性を通じて（ ）をとうとび、（ ）を重んじ誠を尽くして、常に自己の修養に努め、以て（ ）を愛して、広く人類の（ ）に寄与せんとするものである。
2. 「全日本剣道連盟杖道」解説に「杖道修練の効果」としてあげられている次の5点について（ ）内にあてはまる語を記入しなさい。
 - 1) （ ）, 信義、誠実、忍耐等の（ ）が養われる。
 - 2) （ ）を強健にし、（ ）を敏活にする。
 - 3) （ ）態度がよくなる。
 - 4) （ ）力、（ ）力が養われ、自信をもって事にあたれるようになる。
 - 5) （ ）関係がよくなり、（ ）生活に必要な（ ）性が養われる。
3. 「常の構え」の要領について、次の（ ）内にあてはまる語を記入しなさい。
（ ）のまま（ ）で杖の（ ）を握り、（ ）に軽くつけ、杖先をほぼ「（ ）」の高さにし、両足を揃えて立つ。
4. 太刀の「携刀姿勢」について、次の（ ）内にあてはまる語を記入しなさい。
左手の（ ）を鐙にかけて四指で鐙元付近を握り、肘をわずかに曲げて、（ ）を上にし、「柄頭」が（ ）上、切っ先が約（ ）度後ろ下がりになるようにして、左親指の付け根を（ ）の上に軽くつけて太刀を携える。
5. 「全日本剣道連盟杖道」の基本形12本の名称を書きなさい。
一本目（ ） 二本目（ ） 三本目（ ） 四本目（ ）
五本目（ ） 六本目（ ） 七本目（ ） 八本目（ ）
九本目（ ） 十本目（ ） 十一本目（ ） 十二本目（ ）
6. 「全日本剣道連盟杖道」の形12本の名称を書きなさい。
一本目（ ） 二本目（ ） 三本目（ ） 四本目（ ）
五本目（ ） 六本目（ ） 七本目（ ） 八本目（ ）
九本目（ ） 十本目（ ） 十一本目（ ） 十二本目（ ）
7. 「全日本剣連杖道」解説書の「基本指導上の留意点」について、次の（ ）内にあてはまる語または語句を記入しなさい。
基本は、杖道形の（ ）の原則を示したもので、基本の組合せが形になっているのではない。したがって基本の稽古は、形を（ ）かつ円滑に遣えるようにするために行うことを念頭において稽古する。便宜上、団体で一緒に演武し、また連続して稽古をしているが、各動作を大切に、（ ）、打突に、十分気をつけて行う。とくに単独動作では、（ ）が一致するよう心がけて、（ ）を身につけるよう稽古する。
8. 「全日本剣連杖道」解説書の「太刀の中段の構え」について、次の（ ）内にあてはまる語または語句を記入しなさい。
（ ）を前に、（ ）は（ ）前より約（ ）前にして、（ ）の付け根の関節を（ ）の高さにする。剣先の延長は、（ ）の中央または（ ）とする。また（ ）の間合を前提とする。
9. 「全日本剣連杖道」四本目「斜面」の目的を書きなさい。
10. 「全日本剣連杖道」解説書の「杖道の指導精神」について、次の（ ）内にあてはまる語または語句を記入しなさい。
杖道は（ ）を主とせず、相手の（ ）に応じて変化し制圧するのが本旨であって、その精神は「（ ）つけず（ ）をこらして戒しむる 教えは（ ）にやはある」という古歌にあるとおり、形の多くは（ ）で始まる。

受験番号 _____ 番 氏名 _____

1. 全日本剣道連盟制定の「剣道修錬の心構え」について、次の（ ）内にあてはまる語または文を記入しなさい。
剣道を正しく真剣に学び、心身を錬磨して（ ）を養い、剣道の特性を通じて（ ）、
信義を重んじ（ ）、常に（ ）に努め、以て（ ）を愛して、
広く人類の（ ）に寄与せんとするものである。
2. 「全日本剣連杖道」解説書にある「太刀の構え」6つの名称を答えなさい。
3. 「全日本剣連杖道」解説書にある「繰付」の指導上の留意点について、次の（ ）内にあてはまる語句を記入しなさい。
杖先ほぼ（ ）センチのところで「打」の（ ）をすくう。右足は「打」の右足の線の（ ）に位置する。頭上の杖の線、両（ ）の線、肘の線、（ ）の線、腰の線、両（ ）の線は、（ ）となし、ねじれないようにする。杖先は「打」の（ ）とする。繰付けた時、左手は（ ）に、両足は「打」の方向に進み、「打」の両足と一直線に並ぶ。（ ）を真っ直ぐにし、「打」を注視し、姿勢を崩さない。
4. 「全日本剣連杖道」解説書の「杖道の姿勢」「杖の構え方」の要領について、次の（ ）内にあてはまる語句を記入しなさい。
○「立杖」 自然体で立ったまま右腕を（ ）に下げ、杖を軽く握り、右手首を（ ）につけ、杖尾を（ ）の外側約（ ）センチの位置に置いて立てる。
○「提杖」 自然体のまま杖を右手で握り、杖先を（ ）に向け、杖尾を（ ）につけ、（ ）を右体側につける。
○「常の構え」 自然体のまま右手で杖の（ ）を握り、（ ）に軽くつけ、杖先をほぼ「（ ）」の高さにし、両足を揃えて立つ。
5. 「全日本剣連杖道」三本目「引提」の「引提げの構え」について、次の（ ）内にあてはまる語句を記入しなさい。
（ ）から右足を退き、杖先を（ ）にし、（ ）に立てて（ ）になり、杖を（ ）で握ったまま（ ）を見る。杖を握った右手首は、捻りながら（ ）を大腿部に向け、（ ）の中央と（ ）の線に杖を立てる。左手は（ ）に伸ばし体側につける。
6. 「全日本剣連杖道」七本目「霞」の「霞の構え」について、次の（ ）内にあてはまる語句を記入しなさい。
（ ）から左手で杖先を（ ）に握り、（ ）を退きながら右手を（ ）にとる。「霞の構え」は原則として（ ）である。左肘は（ ）につけ、左拳は（ ）より少し上とする。（ ）は横に張らずに落とす。右手は（ ）を曲げず、四指を揃えて伸ばし（ ）に置く。
7. 「全日本剣連杖道」八本目「太刀落」の目的を書きなさい。
8. 「全日本剣連杖道」九本目「雷打」の目的を書きなさい。
9. 「全日本剣連杖道」解説書の「杖道の指導精神」を書きなさい。
10. 「全日本剣連杖道」解説書の「杖道を学ぶ目的とその効果」を書きなさい。

